



新スローガン決定

昨日、学級旗発表会と生徒総会が行われ、その中で生徒会の本年度の新しいスローガンが発表されました。下の写真はそのときの様子です。『来夢』は、「らいむ」と読み、未来の夢に向かって前進するという意味があります。そして、上村生徒会長から、

「このスローガンには、私たち一人一人が自分の活躍できる場所、輝ける場所を見つけ、それに向かって努力し突き進んでほしいという願いが込められています。自分の目標を決め、達成のために全力疾走できる詫中生になりましょう」という呼びかけがありました。

新しい志で吹かせた風が、きっと輝ける場所へと導いてくれることでしょう。



スポーツの明と暗

先日、アメリカ大リーグで起きた「世紀の大誤審」。完全試合目でセーフと判定し、大記録を台無しにした審判に非難が浴びせられましたが、自分のあやまちを素直に認めた審判と、それを責めずに前を向いて進もうとする一流選手の生き方が共感を呼びました。

それとは対照的に、大相撲の野球賭博が大きな話題となっています。取り調べを進めていくうちに、だんだんと大きな事件に発展し、力士を指導する立場の親方からも野球賭博をしたという申し出があったと聞きます。あやまちはだれにでもあること、それを隠そうとするか、素直に認めるかで、その後の人生が大きく変わります。そして、それはその人を取り巻く環境や小さい頃の教育が大きな影響を及ぼしていることもうかがえます。学校においても、いけないことはいけないと毅然とした態度で指導していきたいと思えます。

子どもが学校で文具を盗んで持ち帰ったが、母親に叱られなかった。2度目には着物を盗んで手渡すと、前にもまして感心してくれた。大きくなってもっと大きな盗みに手を染めるようになり、やがて捕まった◆「イソップ寓話集」(中務哲郎訳、岩波書店)にあった話が脳裏に浮かんだ。野球賭博への関与を否定していた大相撲の大関琴光喜が、日本相撲協会が行った実態調査に対し、一転して関与を認めた◆協会にすればあまりに痛い。やっていないと言っていたのに、うそだった。暴力団観戦問題で関係者を処分したばかりなのに、これではまるで「不祥事のデパート」。しかもよりによって数少ない日本人大関の行為だ◆しかし、もとをたどれば協会に原因がなかったのか。協会は身内の悪さをしからず、問題になると臭い物にふたをするやり方を続けた。弟子の暴行死事件では、外部の力が働くまで動こうとしなかったし、行儀の悪い横綱にも長い間、見て見ぬふりをした◆そんな協会で育った力士だ。暴力団が絡みやすい野球賭博だって大目に見てくれる、そう思ったとしても何の不思議もない。事実、大関のほかに30人近くが野球賭博を申告した。彼らのしこ名は公表されていない◆盗みで捕まった子どもは、処刑場で嘆く母親の耳に食いつき、最初に叱ってくれていたらと嘆いた。大関の処分は、暴力団絡みかどうか調査した上で決まるが、それにしても、もっと叱っていたらと嘆くことばかりの団体である。(四国新聞「一日一言」から引用)

※ イソップ寓話集「盗人と彼の母親」 ある少年が、友達の教科書を盗んで、家に持ち帰った。母親は、少年を打ちすえるどころか、もっと盗って来るようにとうながした。少年は次に外套(がいたう)を盗み、母親のもとへと持って行った。すると彼女はまたしても、少年を褒めそやした。

少年は成長すると、大泥棒になり、ついに捕まった。そして、両手を後ろ手に縛られ、処刑場へと引っ立てられて行った。母親は、悲嘆に暮れて、群衆の中をついて行った。そのとき、息子が母親にこう言った。「お母さん、ちょっと耳打ちしたいことがあります」。母親が、息子のそばまで行くと、彼は突然、母親の耳に噛みついて、耳を噛み切った。彼女は息子を、残忍この上ない子だと罵った。すると息子はこう言い返した。「もし、私が、教科書を盗んだ時に、打ち据えていてくれたら、こんな事にはならなかったろうに・・・ああ、私はこうして死の淵へと引っ立てられて行くのだ！」